

knitr

宮崎

2014 年 1 月 9 日

[Campbell and Mankiw(1990), 吉良 and 太郎 (2010)] を参考にする.

はじめに, 乱数を発生させ, 回帰を実施する.

結果を実行すると以下のとおりである.

```
result <- lm(y ~ x)
```

結果を表 1 にまとめられる. 回帰係数は 1.82 である. 結果は図 1 にまとめられる

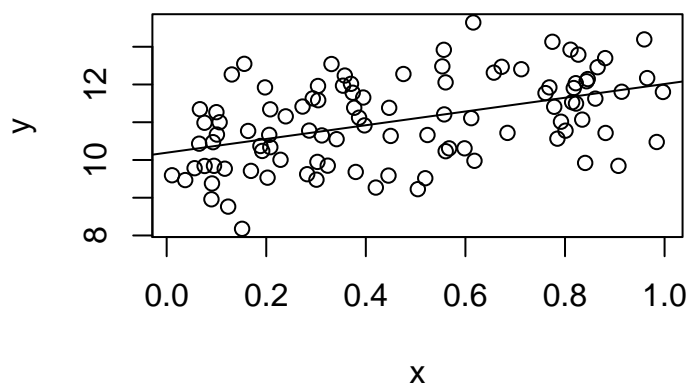
参考文献

[Campbell and Mankiw(1990)] John Y. Campbell and N. Gregory Mankiw. Consumption, income, and interest rates: Reinterpreting the time series evidence. NBER Working Paper 2924, National Bureau of Economic Research, Inc, 1990. URL <http://ideas.repec.org/p/nbr/nberwo/2924.html>.

表1 回帰結果表

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	10.193	0.192	53.062	0.000
x	1.820	0.353	5.162	0.000

図1 回帰結果図



[吉良 and 太郎 (2010)] 坂井吉良 and 瀧本太郎. 消費のランダム・ウォーク仮説と恒常所得仮説の検証について. 政経研究, 47(1):352-332, June 2010. ISSN 02874903. URL <http://ci.nii.ac.jp/naid/40017230972>.